

49歳男性。下山日を過ぎても帰らないと家族から警察に捜索依頼。また、登山者から富山県側から「助けてくれ」という声が聞こえたと言警察に連絡あり。入山から10日後にヘリコプターで救助された。

遭難地点



ルートは推測



天狗の頭から不帰・唐松岳方面に向かう場合、最初はなだらかな稜線が続きます。が、天狗の大下りで一気に300～400mほど下ります。この天狗の大下りの最上部には鎖場があるのですが、ここを通過した地点が問題です。鎖を通過すると登山道に降り立ちますが、この時に登山道をスルーして、そのまま涸れた沢を下ってしまうことがあるのです。鎖にたよって岩場を下降するのですが、この鎖が登山道よりも少し下まで垂れ下がっています。そのため、鎖を最後まで掴んだ状態で降りていくと、ロープを潜っていることに気づかないまま、登山道下の沢へ入り込んでしまうのです。（中略）

中には手元しか見えてない登山者がいます。そうになると、鎖を通過しきった地点で正しい登山道が見えず、目の前に広がる涸れた沢を登山道だと誤認するかもしれないのです。（HP参照）

アルプスの登山道は、上記のとおり分かりにくい所も多く、「あれっ？おかしい？」と思った場合は、付近をよく観察し、ペンキの目印を見つけるようにしたい。この事例のように沢を下ってしまうと戻るのも難しくなり、滑落して身動きできないパターンも多い。遭難には必ず「ターニングポイント」がある。冷静な判断をする必要がある。